

堆肥の自然発火による火災発生にご注意ください！

先般、県内の堆肥舎において、堆肥化の発酵熱等による自然発火が原因とみられる火災が発生しました。

通常、家畜ふん尿は水分が多いことから、発酵期間中の最高温度は60～80度であることが多く、自然発火による事故が生じる可能性は低いとされています。

ただし、夏季などの高温期や堆肥の過度な乾燥、3mを超える堆積等によります。

県内では、7月上旬以降、降雨が少なく最高気温が連日30℃を超えるなど、高温・乾燥が続いておりますので、堆肥の自然発火による火災の発生を予防するため、下記の対策を徹底しましょう。

1. 監視巡回による異常の早期発見

堆肥舎で煙や火が発生していないか、定期的に巡回し確認しましょう。煙や火を発見したら、堆肥をかき混ぜたりせず、直ちに消防へ通報しましょう。

2. 定期的な切り返しによる蓄熱の防止

定期的な切り返しにより、堆肥内部の通気性を改善し、蓄熱の分散とともに均一な発酵を促しましょう。

3. 堆積高に注意

3mを超えた乾燥堆肥の堆積により蓄熱が進み、自然発火の危険性が高まります。発酵を促進するためにも、堆積高は1.5～2mが適切です。

4. 堆肥舎ならびにその周辺の整理整頓

万が一火災が発生した場合、その被害を最小限に抑えるために、堆肥舎及びその周辺の整理整頓に努め、被害の拡大を防止しましょう。

